

研修を
終えて

「言葉の大切さ」
盛岡市立乙部中学校
大沢 玲未

「コミュニケーション能力を、ビクトリアでも発揮し、両市の文化交流を活発にしたいと思います。」ここから始まった私の世界は次々と広がっていきました。

第一回の研修会。とても緊張していた私の手は、手汗で大変なことになっていました。もらった資料を見ていると、なぜかしわしわになっていました。どの人に話しかけたらよいのか、まわりの雰囲気を見ながらどんどん話しかけていこうと思いましたが、この緊張は毎回の事前研修で、少しずつとれてくような気がしました。

ビクトリアに行ってから、スピーチコンテストで言った事を実行しようと思いました。あちらの学校では教室に入るまで、あの第一回の研修会と同じ状況でした。しかし教室の中へ入ると、クラスみんなが「Welcome!!」と言って私達をむかえてくれたのです。とてもうれしく中へ入りやすかったです。同じクラスだった人達には、かぶとの折り紙をプレゼントしました。「かぶとは日本の「サムライ」がかぶっていたものですよ。」と説明すると、「サムライ?」という人と「サムライ!!」という人の2パターンでした。どちらの人達も、もらったらありがとと笑顔で言ってくれたのでうれしかったです。しかし、その説明は準備していたから伝えられたのであって、その後に聞かれたことに Yes, No の2パターンでしか答えられなかったのです。ホストファミリー先でも同じことで困りました。

ホストマザーやファザーは、簡単な英文で質問をしてくれたので、何と聞かれているかは分かりました。でもうまく、くわしく相手に伝えることができず、苦戦しました。電子辞書をフルに活用し、なんとか伝わるという感じでした。この時、もっと会話して楽しく会話のキャッチボールをしたいと強く思いました。

今回の研修で私が出たものは、積極的に話しかけにいく姿勢と、どうにか1語文であっても相手に伝えようとする気持ちの強さです。「言葉の大切さ」を知った今、日本では初対面で会った人に対して話しかけるということは、難しいようで簡単なものだと思います。

私は、将来に向けて、様々な人達と、気軽に言葉のキャッチボールができるように知らない言葉をおぼえ、「本当のコミュニケーション能力」を全力で伸ばしていきたいです。

研修を
終えて

「憧れから目標に」
盛岡市立河南中学校
佐々木 紅葉

この研修は私にとっては初めてのことがたくさんで驚くことばかりでした。

日本の学校では、時間の5分前には教室に入る、決まった自分の席に必ず座らなければいけない...など私たちの行動が、時間やルールに決められているような気がします。しかし、カナダの学校は授業中の席の移動、授業中の立ち歩き、休み時間にお菓子を食べる...これらのことが全て許されているのです。最初はこれらの行動に抵抗があったのですが、少しずつ慣れていき、最終日には何も抵抗なく、カナダのみんなと同じ行動をとっていました。

今までは、私が知っている日本の姿を基準として物事を見ていましたが、カナダに行って私のものの見方が変わりました。それは、自分たちが見ている姿が正しいわけではないということです。日本にいれば、普通のことだけれども、一步世界に出るとその普通のこと普通ではなくなるのです。私はこのことを実際に体験したため、今までのような「当たり前でしょ?」という考え方は間違っていると気づきました。自分だけの価値観で物事の基準を決めてしまうと、周りの人々の考え方がおかしいと感じたり、間違っていると感じたりしてしまいます。だから、私はこれからたくさんの視点で物事を見たいと思います。

カナダで一番楽しかったことは、学校での生活です。廊下で目が合うと「Hi!」とみんなが挨拶してくれるのです。また、プレゼンが終わった後に初めて話す子が「あなた達の発表とても楽しかった」と声をかけてくれました。このように、カナダの子は自分の気持ちを伝えてくれるので、一緒に話していて気持ちが良く、ストレートな言葉のため誤解がなく、話を進められました。日本人も自分の気持ちを相手に伝えれば、もっとよりよい関係になると思います。私も相手のことも考えながら気持ちを伝えていきたいです。

今までは私にとって世界はただの憧れでした。しかし、カナダに行き世界で働きたいという気持ちが強くなりました。そのためただの憧れではなく、自分の目指す場所、目標として努力していきます。

この研修でたくさんの仲間とたくさんの思い出を得ることができました。本当にありがとうございました。

研修を
終えて

「たくさんの人に支えられて…」
盛岡市立下橋中学校
智田 琴音

私は初め、この研修への参加がとても不安でした。なぜなら、私は海外の食事が苦手だからです。それ以外は特に大きな不安要素はなく、事前研修でも他の仲間と打ち解け、研修が楽しくて仕方ありませんでした。

そして出発のとき、私はワクワクしながら飛行機にのりました。食事への不安を除いては…

しかし、そんな心配は無用でした。ホストファミリーに会い、家に行き生活してみても、私のきらいなものがでたとき、少し失礼かなと思ながらも勇気をふりしぼって、「Sorry, I don't like this.」と尝试してみたら、「OK.」と言ってそのお皿をさげてくれたのです。私の不安はこのとき一気に飛び去り、残りの生活はととても楽しめました。

それから、GHMSでの学校生活。そこでは普段できないような体験をたくさんすることができました。日本とは違う授業、教室。ダンスやフランス語など、日本にはない教科まで体験することができ、とても貴重な経験となりました。GHMSの生徒の人達もとてもフレンドリーで、たくさん話すことができました。

私は、全然英語が聞き取れなかったこともありましたが、知っている単語や、話してくれる人のジェスチャーや絵などでたくさん会話できました。それもホストファミリーや、ホストスクールで出会った、とても優しい友達のおかげです。本当に感謝しています。

カナダでは、団長、引率の先生方、他の団員の人にとっても迷惑をかけてしまったと思います。それでも私がこんなにカナダLifeをEnjoyできたのはみなさんのおかげです。特に団員のみなさんとは、海外研修により、さらに打ち解けられたような気がします。カナダに行く前と後で、印象が変わった人もいました。研修が終わっても連絡をとりあいたいです。

今回お世話になりました、カナダのホストファミリー、GHMSのみなさん、岡市さん、加藤先生、吉田先生、ヒロ先生、事務局のみなさん、そして、団員のみんな。たくさんの方の支えがあってこそ今回の研修だったと思います。感謝してもきれません。こんなに貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

研修を
終えて

「勇気！」
盛岡市立厨川中学校
福井 彩華

私は今回がはじめて行く海外旅行でした。言葉や文化、食べる物もすべて違うビクトリアで、印象が強い出来事を二つ紹介します。

一つ目は、ホームステイの学校で行ったプレゼンテーションです。私は「住」のチームで、太鼓をたたきました。日本のシーンとした会場ではなく、ざわざわとした会場でしたので、私の音が届くか不安になりましたが、最初のドンツという一打がたたかれると、先程までさわがしかった会場が、シーンとした静かな会場に変わりました。演奏が終わると、歓声と拍手が私を包み込みました。初めての取り組みで、成功するか不安でしたが、言葉を使わなくても、私の思いが届いたと思うので、とてもうれしかったです。

二つ目は、ホームステイ中に日本人の「あやのさん」に出会ったことです。あやのさんは私のホームステイ中のマザーと友達で、一緒にショッピングへ行きました。私はひさしぶりに聞いた日本語に感動しました。

あやのさんで行ったお店は、最近新しくできた町にある、デパートです。中は日本よりも広く、棚の上にある売り物すべてがとても大きくてびっくりしました。私が研修に行ったときはハロウィンが間近にせまった時期だったので、ハロウィン用の少し気持ち悪いマスクや、魔女やディズニーのキャラクターなどといったキラキラした衣装があって、日本にもこんな文化があったら楽しいのになど憧れました。あやのさんのガイドと共に、日本との相違点や共通点、私の学校についての話など、楽しく会話をしました。その会話の中で、あやのさんの一言が今も印象に残っています。

「文法を気にしないで、自分の今思っていることを伝えればいいんだよ。」この言葉が私に勇気をくれました。今まで積極的にホストファミリーと会話をしようとはしていませんでしたが、勇気を出して、自分から話しかけることができました。

この研修で出会った「初めての体験」は、私にとって一番の宝物となりました。

最後に団員のみなさん。みなさんのおかげでも楽しい研修となりました。本当にありがとうございました!!

研修を
終えて

「自分の思いを伝える力」
盛岡市立浜民中学校
水谷 実紀伽

私はこの研修が初めての海外でした。以前から英語に興味があり、いつか海外に行って実際に現地の人と話してみたいと思っていました。この研修に参加するために学校の先生方には作文の推敲を手伝っていただいたり、二次審査の際にはスピーチの指導をしていただきました。私がこの研修に参加することができたのは先生方のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。

現地に行ったとき、ホームステイの家では最初ホストファミリーの言っていることが理解できず苦労しましたが、自分の考えが伝わった時の感動と喜びは今も鮮明に覚えています。家にはスペインからの留学生も来ていて一緒にゲームをしたり、数学を教えてあげたりしました。自分が外国の人に数学を教えるなんてこの研修だからこそできたと思っています。ホストスクールでも言葉の壁に何度もぶつかりました。質問されても内容が理解できず話が続かなかったりしましたが、ある時「次の授業は何？」と拙い英語で思い切って聞いてみました。1度では通じず「だめかな。」と思いましたがここであきらめたらいけないと思い、理解してもらえらるまで一生懸命繰り返しました。すると相手も理解してくれたようで丁寧に教えてくれました。私はこの時自分の思いを一生懸命に伝えようとすれば、相手も必ず応えてくれる、そしてそこには言語の壁はなく、相手に伝えたいと言う強い気持ちがあれば十分だと確信しました。その後は現地の人と積極的にコミュニケーションをとり、自分の思いをたくさん伝えることができました。

この研修は私の大きな財産となりました。これからの生活では自分の思いを相手にしっかりと伝え、また相手の意見にもしっかりと耳を傾け、一地球人としての広い視野で物事を見て、将来お互いの地域の発展に貢献していきたいです。今回の研修でお世話になったメンバーのみなさん、先生方、団長、この研修を支えてくれたすべての方々に心から感謝しています。この研修での貴重な体験や出会いを大切に歩いていきたいです。本当にありがとうございました。

研修を
終えて

「TRYすることの大切さ」
盛岡市立城西中学校
村上 萌菜

私が、今回の研修を通して特に学んだことは、「TRYすることの大切さ」です。ビクトリアに行くまでは楽しみも、もちろんあったけれど正直、不安の方が大きかったと思います。周りの人は「大丈夫だよ」とか「何とかなるよ」という言葉をかけてくれたけれど、私の中では「言葉が通じなかったらどうしよう」とか「いやな顔をされたらどうすれば良いの？」というような不安で一杯でした。

私が「TRYすることの大切さ」を知ることができたのは、ホストファミリーとの会話が一番のきっかけでした。いつも、ホストファミリーから話しかけられるのを待っていて、聞かれたことにYesかNoで答えたり、うなずいたりするだけで言いたいことがあっても自分から話しかけることができませんでした。ところが、ある日のことです。学校からの帰り道、車で帰っていたときに、お昼のお弁当のお礼を言いたかったのに、思うように言葉がなくて話しかけられませんでした。それを見たホストファミリーが「どうしたの、何か話したいことがあるの？」とやさしく聞いてくれたので「お弁当をつくってくれてありがとう。」と思いきって言うことができました。話す、ホストファミリーは、とても喜んでくれたので、話してよかったと思いました。それから、思ったことは自分から話しかけたり、YesかNoで答えた後に一言つけ加えたりして、前よりも会話がはずみ、楽しくなりました。この体験を通して、たった一言でも思いきって声をかけることで会話がはずみ、仲良くなれるのだということがわかりました。どんなに小さなことでも、「TRYすること」を忘れずに色々なことにTRYしていきたいです。そしてたくさんのことを見つけて行き、「何ごとにもTRYできる人」になりたいです。

最後に、一緒にビクトリアに行った11人のメンバー、先生方ありがとうございました。そして支えてくださった家族の人たち、本当にありがとうございました！私一人ではなくみんなと一緒にだったからこそできたこともあったと思います。いつかまた会ったときに、ビクトリアの思い出を話し合いたいなと思っています。「Thank you very much !!」

研修を
終えて

「ありがとうカナダと仲間」
盛岡市立大宮中学校
滝村 伸

去年、私は初めてビクトリア研修のを知り、応募しました。けれど二次試験で落ちてしまいました。だからこそ今年行けて本当によかったし、この仲間と共に行けたから本当に今年でよかったです。初めこのメンバーと仲良くできるかどうかとても不安でした。けれど毎回の研修を通して、みんなに会うことが楽しくなっていました。そして事前研修も終わり一年前に夢見たカナダに行きました。

私がカナダでとても思い出に残っていることはホームステイとホストスクールです。ホームステイでは、一日目の夕食がピザでとてもおいしかったのを覚えています。そして私が行った家庭には子供が二人いて、大きいトランポリンで一緒に遊びました。またホストマザーにはたくさんの場所に連れていってもらいました。その中でも特に思い出に残っていることは、お化け屋敷です。初めどこに行くのかまったく分からずとまどいましたが、家族みんなが優しく教えてくれました。だから、とってもとっても楽しく「Haunted House」を満喫することができました。本当に楽しく思い出に残るホームステイになりました。そしてホストスクールでは、たくさんの人と友達になることができました。みんなフレンドリーで初対面でも話しかけてくれるので私もとても親近感がわきました。また、カナダではフランス語の授業がありました。友達に聞きながらやりました。けれど難しかったです。

その次の日、日本についてのプレゼンテーションをしました。私のチームは食で、私は柔道と弁当の担当でした。柔道をみんなの前で見せたとき、とても大きな拍手がわいたのを覚えています。大きな拍手がとてうれしかったです。そしてカナダの人に日本の国技を伝えられて良かったです。また弁当は私たちが学校にもっていく昼ごはんについて紹介です。カナダは、りんごが丸々入っている、という感じで、日本とカナダの違いについても分かってもらったと思います。

今回の研修は英語を使う難しさ、楽しさや、文化の違いなどたくさんを学びました。そして本当にこの仲間と行けて、今年行けてよかったです。みんなに感謝したいです。最後に、私は将来また、もう一度カナダに行きます。

研修を
終えて

「たくさんの出会い」
盛岡市立大宮中学校
川崎 杏菜

私がビクトリアに行くことが決まったとき、喜びよりも不安でいっぱいでした。しかし、事前研修で仲間に出会いとても仲良くなりました。研修を重ねていくごとに、不安がわくわくした気持ちへと変わっていきました。実際にカナダに行き、私が一番おどろいたことは、カナダの人はみんなフレンドリーだということです。学校に行ったときにたくさん話しかけてくれたり、名前を覚えてくれて、すごうれしかったです。折り紙をあげるとすごく喜んでくれました。一緒に折れたことがすごく印象に残っています。ホストファミリーはとてもやさしい人で、私にも分かるような簡単な英語を使ってくれたり、ゆっくり話してくれました。初日は、ほとんど言っていることが理解できなかったのですが、日がたつにつれ、言っていることが理解できるようになりました。言葉が分からなくても、ジェスチャーなどで伝わるときもあったので、大切なのは「伝えよう」とする気持ちなんだと思いました。

ホームステイでも学校でもとてもあたたかく迎え入れてくれました。私は日本人扱いされると思っていたのですが、そんなことはなく、1人の友達、家族として接してくれてすごうれしかったです。たくさん質問されて、質問して…のくり返しでした。お互いの文化や生活についてもたくさん学べたのでよかったです。私がどんなに聞き取れなくても、嫌な顔せず答えてくれたのでカナダの人のあたたかさを学びました。ホストファミリー、友達には本当に感謝しています。本当にありがとう!!学校の友達からもらった手紙やプレスレットは私の宝物です。この研修を通して、学んだことがたくさんありました。人の思いやり、あたたかさです。私も初対面の人にも優しく声をかけられる人になりたいです。これからもっと英語を話せるようになって、もう一度カナダに行きたいです。そして、ホストファミリー、学校の友達とたくさん話したいです。

最後に、今まで支えてくださった、団長の岡市さん、先生方、ヒロ先生、事務局のみなさん、そして11人の仲間!!本当にありがとうございました。この出会い、そして経験を忘れずに、これからも国際協力の架け橋となれる人を目指して頑張ります!

研修を
終えて

「 One more time 」
盛岡市立上田中学校
藤澤 樹

私は、海外にあこがれていました。海外に行けば、自分が変われると思っていたからです。しかし、今回の研修で私を変えたのは、「海外に行った」ことではありませんでした。

今回、私は自分でも実感できるほど成長したと思っています。理由は二つあります。

一つは、積極性です。以前から、私は消極的な人間でした。そんな自分を変えようと今回、この研修に参加しました。研修では、初めこそお互いに遠慮していましたが、活動を通じてなんとなく意見を言える関係になりました。そして、カナダ。研修の時とは違い、ほぼ全員が英語を話します。最初に話したのはホストファミリーと会った時です。あいさつは、なんとかできたが、車の中での会話は、とても緊張して、しゃべることができませんでした。これではいけないと思い、私は、普段では考えられないようなジェスチャーで意思を伝えようとしました。会話が成立した時はとてもうれしかったです。この時わかったことは、一生懸命やったら絶対伝わるです。このことをきっかけに、これ以降の会話がとても楽しくなりました。

もう一つは、自分ひとりでは何もできないということです。絶対この研修は、自分だけでは成功しないし楽しくもないと思います。自分には足りないところが多くあります。それを、おぎなってくれたのが今回の研修メンバーだと思います。今まで、自己中心的だった性格も多少は改善したと思います。

今回私を変えてくれたのは、「海外へ行ったこと」ではなく、「多くの人と関わった時間」だと思います。

この研修で私は、人として変わることができました。成長することができました。しかし、まだ性格的にも能力的にも足りないことが数多くあります。これから先の人生で、自分の足りない所をおぎなえるようにしたいです。

One more time !

私は、もう一度ビクトリアに行きます。いつになるかはわからないけど、もう一度訪れて、このすばらしい時間を思い出したいです。

PS いつかまた会いましょう。

研修を
終えて

「自分の思いを伝える大切さ」
盛岡市立上田中学校
笠原 彩未

私は、将来英語を必要とする職につきたい、そう考えていてこの研修に挑戦することに決めました。普段の私なら絶対にチャレンジしてみよう、なんて考えなかったと思います。この瞬間からもうすでに、積極性とか、チャレンジ精神とか…そういう物が私の中で変わろうとしていました。

研修を重ね、カナダへの期待がふくらむ中、ついに10月26日、出発当日!! 沢山の先生、家族に見送られながら、日本を去りました。ビクトリアについてまず1番に思ったのは、「街がきれい」でした。家も庭も木も全て完璧で、本当に良かったです。観光を終えた後はいよいよホストファミリーとの対面。ここからが本当のスタート。緊張と緊張と…ほとんど緊張でした。でも、そんな気持ちは一気に吹き飛びました。「お腹すいてない?」「疲れてない?」など常に私に気をつけてくれるファミリーに温かさを感じました。でも、やっぱり言語の違いには苦労の毎日…。私は行く前までは今まで沢山英語を学んできたし、大丈夫、伝わる!とっていました。だけど実際は全く使えず、伝わらず…。会話もはやくて聞き取れない、自分の気持ちを上手に伝えられない。楽しいのにその一言が言えない…と少しショックでした。しかし、そんなことでへこんではいけない!! この悔しさをバネにして、私は日本へ帰国したらもっと英語を学ぼう! そう強く思えるきっかけとなりました。いつか絶対またホストファミリーに会いに行き、自分はこのようにも変わりました! という姿を見せたいです。私にわからない単語や文をゆっくり丁寧に教えてくれたKaelaとNathalie、本当にありがとう。

この研修を通して、伝えることの大切さを学びました。伝わらないと何も始まらない。この研修だって、「やりたいです。」と伝えなければ誰もわからない。ホームステイをして、自分の気持ちを思うように伝えることのできなかつた私は、人に伝えることは難しいけど、やっぱり大切なんだ、と思いました。だから言語が違っても自分の思いを伝えられるように、もっと英語を勉強します! そして日本では伝えないと何も始まらないのだから、今までの消極的な自分を変えよう、そう思います。

今回12人のメンバーとカナダへ行けて本当に良かったです。ありがとうございました。

研修を
終えて

「 I have changed !! 」
盛岡市立見前中学校
高橋 由伸

この研修に参加するきっかけとなったのは、本当に些細なことでした。ある日廊下で先生に声を掛けられ、このような活動があるぞ、ということで、応募したところ、男子が僕一人でそのまま合格となりました。

「カナダに行く」。そんな実感がないまま、初めての研修がありました。ほとんどが三年生で、上手くやっていけるか不安だったけど、温かい人達ばかりですぐに打ち解けることができました。そこで初めて「この仲間と一生の思い出に残るカナダ研修にしたい!!!」と思うようになりました。それから二回目、三回目、四回目と研修を重ねるごとに団結力、結束力も強まってきました。

ついにカナダに出発する日。僕は喜びのせいから少し変なテンションになっていました。飛行機に乗り、離陸し、日本の街並みの光が見えなくなったとき、思わず笑みがこぼれました。約9時間かけ、バンクーバー空港に到着。その後の日々はあっという間に過ぎていきました。

楽しみにしていたホストファミリーとの対面の時、exciteする気持ちでいっぱいでした。ホストファミリーは元気で優しい人達でした。少しのことでも「Thank you !!」というホストファミリーを見て、カナダ人てカッコいいなと思いました。私達日本人は照れくささや、一言言う為の勇気が出せないということが多く、自分を表現しきれないと思うので、もっともっと自分を表現するべきだと思います。僕は、この想いをホスト校で実践しました。自分の言っている英語が伝わるか分からないけど、どんどん話しかけてみました。すると、おおよその意味を汲んでくれ受け答えをしてくれました。この時、国境を越えた気がして、とても嬉しくなりました。その他、色々な観光をしたり、様々な場所を訪れたりしながら私達は日本に戻ってきました。

この研修で僕は、カナダ人からあたたかい気持ちや思いやりの心をもらいました。今度はもらったものを日本で広げていきたいと思います。本当にこの研修のおかげで「I have changed」(私は変わった)と思います。将来、もっと英語を上達させてもう一度カナダに行きたいです。

最後に、今まで一緒に活動してきた皆、先生方、サポーターの方々、カナダの皆さん本当にありがとうございました。See you again !!

研修を
終えて

「出会ったもの」
盛岡市立見前中学校
佐々木 彩乃

「百聞は一見に如かず」。普段は諺の引用なんてしない私が、今この言葉に凄く魅力を感じています。何故なら、私はこの研修の全てを通して、本当に沢山の事を吸収することができたからです。

事前研修で皆と調べた、憧れのカナダ。まだ見ぬ夢の国への期待で、飛行機9時間なんてあっという間に過ぎていきました。…なんて。本当は皆寝ちゃって少し寂しかったです。地平線から明るくなっていくのを見て、感動しながら朝食のパンを食べていました。そして…ついにカナダへ！ドキドキしながら空港に入ると、見渡す限りの…外人さん。うっかり「うお、外人だ！ OKOK! HAHAHA!」なんて、一人ではしゃいでしまいました。若干引かれながら空港を出ると、何となく漂っている「外国」の匂い。ワクワクして乗ったバスの臭いも、きっと私は忘れないでしょう。日本のバスはトイレなんて必要ありませんからね。フェリー上では絶景と、ピクルスの親玉みたいなのがのったハンバーガーを楽しみました。これに限らず、カナダの食べ物は全体的に重量級で、私にはベストサイズでした。この日のホテルでは、二人部屋で楽しく過ごし、素敵なあだ名までもらって一気に仲良くなりました。そしてとうとう翌日は、ホームステイ。集合先のホスト校では、皆緊張で硬直でした。ホストマザーと会ってからモド緊張していましたが、ファミリーの笑顔と優しさに触れて、気付けばすっかり家族のようになっていました。同じくホスト校の中学生達も皆フレンドリーな人ばかりで、とてもとても楽しかったです。もし叶うのならもう一度ホスト校に行きたいです。ホストファミリーとホスト校とのお別れの時は本当に悲しくて寂しくて、うっかり泣きそうになりました。皆大好きです。

「カナダ人」と一言と言っても、やっぱり色々な人がいました。優しくったり、面白かったり、その人その人によって違う心の部分を、今回の研修ではとても強く感じました。そしてそれは一緒に行った人達も同じで、本当に出会えて良かったと思います。

今回支えて下さった全ての人に感謝します。ありがとうございました。

研修を
終えて

「視野を広げよう」
盛岡市立下小路中学校 教諭
吉田 真美

カナダ・ビクトリア。盛岡出身の私にとって、その地と盛岡が姉妹都市になった！というニュースは記憶の中にありました。今回そこを生徒と一緒に訪れることができると決まった時は嬉しくもあり、かなり緊張を伴う仕事になるけれど、大丈夫だろうか？という不安もありました。しかし、その不安を取り除いてくれたのは、「生徒達の明るさや積極性」でした。数回の研修を通し、アツという間に仲良くなった生徒達の順応性の高さ。また研修に対する目的意識や向上意識の高さには驚かされるばかりでした。そんな12名の生徒と岡市団長、加藤先生と過ごした数日間。皆が揃うと聞こえてくる楽しそうな声と笑顔、ホームステイが始まってから毎朝、「元気？」と声をかけると「元気です！大丈夫。」と明るい返事が戻ってきたので、充実した時間をそれぞれが過ごしていることが伝わってきました。また、時の経過とともに挨拶や返事の一言がスルーと英語で出てきていたことも、積極性の表れだったと思います。そして一大イベントのプレゼンテーションは、少し緊張もほぐれてきた中で行われました。発表中のGHMSの生徒の反応を見て、その中に入り仲間のフォローをする姿。そして各チームのパフォーマンスはガッチリと彼らの心をつかみました。ホスト校の皆さんの拍手や笑顔、話しかけてくる姿が大成功を物語っていました。校長先生を始めとし、たくさんの配慮をしていただいた皆さんに感謝するばかりです。

この研修を通し、多くの方の優しさに触れるとともに文化の違いを知ることができました。同時に視野を広げたり、考えを伝えたりするために一層英語を学ぶ必要性を痛感しました。今まで知らなかった表現などを知ることが驚きでもあり、喜びでもあると思います。この機会を与えて下さった方々、研修でサポートをして下さった多くの方々に感謝しながら、自校の生徒にも「世界を広げるきっかけ」の1つを与えられるよう報告していきたいと思います。

Seeing is believing

自分の可能性を広げるために、互いに夢を持って一歩ずつ進んでいきましょう。ありがとうございました。

研修を
終えて

「再出発」
盛岡市立大宮中学校 教諭
加藤 敬士

今回、ビクトリア市研修の引率教員としてカナダを再び訪問できたことを大変うれしく思います。研修を通して、私自身カナダで教育に励んでいた時の楽しかった日々が思い出され、毎日が充実した1週間となりました。それはやはり12名の生徒が意欲的に活動し、この研修を充実させたからにほかなりません。特に、現地の学校でのプレゼンテーションは大変素晴らしかったです。

プレゼンテーション当日、ゴードンヘッドミドルスクールの校長先生が、発表の始まる前に全校生徒へお話されていたことがとても印象的でした。「彼らは遠く離れた国、日本から本校にやってきました。皆と同じ年代で、英語圏に住んだことがなく、英語を母国語としない彼らにとって、プレゼンテーションをするというのは簡単な事ではありません。そして、今日集まった12名の生徒は、同じ学校からではなく、それぞれ異なる学校から集まった生徒たちです。つまり準備する期間も限られている中で完成させたプレゼンテーションです。しっかり聞いて、日本の文化を肌で感じましょう。」そのお話を聞いて、今回の団員が事前研修から頑張ってきたことを振り返り、改めて一人一人の責任感、またチームとしてお互いに協力する姿勢の素晴らしさを実感しました。

発表の中には盛岡の衣食住だけでなく、自分たちが地元で習得してきた日本の伝統的な文化も紹介してくれました。3つのグループがお互いに協力し、堂々と日本の文化をカナダに発信してくれている彼らの姿を見てとても誇らしい気持ちになりました。そして、これがこの海外派遣での1つのゴールだとも感じました。海外での生活を経て、その土地の文化の素晴らしさを発見し、そして生まれ育った日本の文化の素晴らしさを再認識することができるのです。私は、5年前にカナダで教育に励み、現地の子供たちに柔道指導していましたが、その時も同じことを感じました。それが世界を知る為の出発点だとも思います。

今回、団員にとってカナダで学んだこの経験は、強く記憶の中に残るでしょう。1週間という短い期間でしたが、他文化を感じ自国の文化を再認識するには十分な時間だったと思います。皆をサポートしてくれた方々に感謝をし、世界に向けて今日から再出発してください。